



夢の架け橋



令和2年 5月14・15日 NO. 3

「日本一心を揺るがす新聞の社説」という本のことを聞かれたことはあるでしょうか。宣伝になってはいけないのですが……。読むと心が温くなる内容の本なので（新型コロナの影響で、心も少し沈んでいるので）、一つの内容を紹介させていただきます。

「みやざき中央新聞社」の社説（水谷もりひとさん）をまとめた本です。市立の図書館にあるかな？ネットでは購入できません。

ここにしか咲かない花

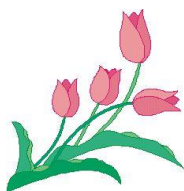
コブクロの「ここにしか咲かない花」の歌からです。

「…**何も**ない場所だけと

ここにしか咲かない花が…

心にくいつけた荷物を **静か**におろす場所…」

この歌を聞いた、臨床心理士の長谷川さんは、歌詞から「家族という場所」をイメージしました。わが家に生まれた大切なわが子。『ここにしか咲かない花』という気持ちがあれば、どんな時にも気持ちは、しっかりと伝わるということです。



小学生の子どもにとって、子どもらしく生きるということは、『甘える場』があるということです。よい意味での『逃げ場』があるということです。そして、長谷川さんは「小学生で、よい子というのは、精神発達上そういないのです。子どもは、自己中心的な面があり、失敗することがあり、それがその時期の本当の姿なのです。」と伝えています。

悩んだり、失敗したり、励まされたり、挑戦したり、その中でたくさんの経験を重ね、時には怒られながら、分別のある大人に育っていくのです。

甘える場・励ましてくれる場、それが『家族という場所』そして、「ここにしか咲かない花」の『わが子』 わが子が成長した時、また迷った時に、この歌が聞こえて欲しいですね。

「…**あのやさ**しかった場所は

今でも変わらずに **僕**を守ってくれますか？」

答えは、いつでも「YES」です。

新型コロナと人権について

新型コロナの終息がなかなか見えずに、子どもだけでなくご家族のみなさんも大変だと思います。

コロナの怖さ。それには、病気にかかる恐さではありません。根も葉もない『うわさ』を流されたり、大切な現場で働いている医療関係者や病気で苦しんでいる人が、言葉やネットで攻撃をされたりする怖さもあります。その人の心を深く傷つける言動です。

ネット等は名前が出ないので、許せない書き込みが拡散されています。見ない・広げない・相談する。何よりも正しい情報かどうかを判断することが大切です。また、テレビの番組の中にも、時に物事をあおり立てるような内容もあります。今こそ、学校でも家庭でも、大人の私たちが、番組を選んだり、ネットからの情報についての正しい判断ができたりするように教えていかなければならないのだと思います。



校内のあちこちに、サツキの赤と白のきれいな花が咲いています。

そして、私たち大人が正しい言動をしないといけません。 渡辺 和子清心学園元理事長の著書からです。

3歳ぐらいの子どもを連れた母親が、道路で汗を流しながら作業している人たちのそばを通りながら語って聞かせています。

「おじさん達が、こうして働いていてくださるおかげで、坊やは安全に道を通ることができるよ。働いている人への感謝の気持ちをもちましようね。」

同じところを、これもまた幼い子を連れた別の母親が通りかかります。子どもに向かって言いました。

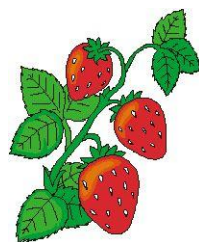
「暑い中での仕事は疲れます。疲れる仕事をしたくなければ、勉強をなさい。」

価値観はこのようにして、親から子どもへ伝わることがあるのです。最初の母親は、人間はお互いに支え合って生きていること、働いている人への感謝の念を子どもの心に植え付けたのに対して、2人目の母親は、職業に対するの偏見と、人間を学歴等で差別する価値観を植え付けたのです。

私の母親は、学歴のある人ではありませんでした。人間として大切なことをしっかりと教えてくれました。・・・「わが身をつねって、人の痛みを知れ。」 意地の悪い私が、母親からよく聞かされた言葉です。

「他人からしてほしいと思うことを、あなたが他人に行いなさい。」という愛と思いやりの心を、側面から表現したものと言っていいでしょう。

「人をつねってはいけない。」と禁止の言葉で教えるのではなく、まず「自分をつねって、つねられた人の痛みを分かる人になりなさい。」ということでした。価値観は、言葉以上に実行している人の姿によって伝えられるものなのです。



『置かれた場所で咲きなさい』（渡辺 和子著）